

新フェローの紹介

飯田 次生 (いいた つぐお) 氏

昭和18年11月生れ

〔学歴〕 昭和42年 早稲田
大学第一理工学部数学科卒業

〔職歴〕

昭和42年 日本碍子(株)(現:
日本ガイシ) 入社

平成3年 同システムセンタ
所長

平成5年 同情報システム部
長

平成12年 同生産技術本部主幹

平成15年 愛知工業大学経営情報科学部および中部
大学工学部非常勤講師 現在に至る

〔OR学会関係〕 中部支部副支部長 平成13年度,
代議員 平成14~15年度, 中部支部支部長 平成
14~15年度, 支部監事 平成16年度~現在

〔著書等〕 他学会・機関含めて論文6編, 発表多数

飯田氏は、日本ガイシに入社以来、一貫して情報システム開発とその管理・運用を担当され、OR・QC・IE等の経営科学手法を駆使しての問題解決とその実務適用を指向してのシステム開発に務めてこられました。特に、技術・製造系システムでの有限要素法と最適化手法を駆使してのCAEや品質問題への多変量解析の活用は、一般製造業での嚆矢的役割を果たされ、所属部門を中心として本学会第25回実施賞を受賞されました。それらの経験を生かし、現在は大学において人材の育成に努められています。本学会においては、中部支部副支部長、支部長等を歴任され、支部活動を支えてこられました。



稲場日出男 (いなば ひでお) 氏

昭和18年3月生れ

〔学歴〕 昭和44年 工学院
大学大学院工学研究科修士課
程修了(工学修士)

〔職歴〕

昭和44年 (株)経営科学研究
所入社

昭和48年 工学院大学工学
部助手

昭和60年 同専任講師

平成2年 小松短期大学助教授

平成3年 同教授

平成17年 同学長 現在に至る

〔OR学会関係〕 昭和58年秋季研究発表会実行委員,
機関誌編集委員 昭和60年度~平成元年度, 交通・
流通システム研究会幹事 昭和62年度~平成元
年度, 平成14年春季研究発表会実行委員

〔著書等〕 論文8編, 研究発表多数

稲場氏は、4年制大学の工学部から文系の短大に移籍されてからも数学をできるだけ使わないORの普及に努められ、講義課目を「問題解決法」とされ、学生にOR的視点をもつよう指導されるとともに、地元のさまざまな委員会のメンバーとして、OR的発想を委員会運営に活かされ、ORに対する認知度の向上に貢献されています。本学会においては、機関誌編集委員、研究発表会実行委員を歴任され、活動を支えてこられました。



大西 匡光 (おおにし まさみつ) 氏

昭和 32 年 2 月生れ

〔学歴〕 昭和 58 年 京都大学大学院工学研究科数理工学専攻博士後期課程中途退学 (経済学博士)

〔職歴〕

昭和 58 年 京都大学工学部助手

平成 4 年 東北大学経済学部助教授

平成 8 年 大阪大学経済学部助教授

平成 14 年 同大学院経済学研究科教授 現在に至る

〔OR 学会関係〕 東北支部運営委員 平成 3 年度, 関西支部運営委員 平成 9~10 年度・平成 13 年度~現在, 関西支部幹事 平成 11~12 年度, 論文誌編集委員 平成 16 年度~現在, 代議員 平成 14 年度~現在

〔著書等〕 査読付き論文約 30 編以上, 研究発表多数
大西氏は, OR における確率モデルと不確実性下の意思決定・ゲーム理論を長年にわたり研究され, 現在ではポートフォリオ選択, アメリカ型オプションの価格付けと最適化問題などからファイナンスの経済学的, 工学的諸問題を研究されています. 本学会においても論文誌編集委員, 代議員, 支部幹事, 支部運営委員を歴任され, その活動を支えておられます.

栗田 治 (くりた おさむ) 氏

昭和 35 年 6 月生れ

〔学歴〕 平成元年 筑波大学大学院博士課程社会工学研究科修了 (学術博士)

〔職歴〕

平成元年 日本学術振興会特別研究員

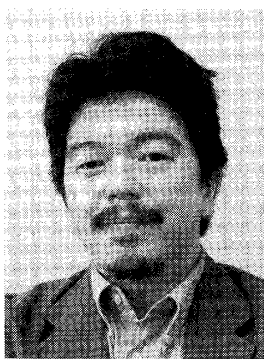
平成 2 年 東京大学工学部助手

平成 4 年 慶應義塾大学理工学部専任講師

平成 8 年 同助教授

平成 14 年 同教授 現在に至る

〔OR 学会関係〕 庶務幹事 平成 2~4 年度, OA 化委員 平成 4~6 年度, 国際委員 平成 5~8 年度・平成 17 年度~現在, 機関誌編集委員 平成 7~12 年度, 国際理事 平成 14~15 年度, IAOR 委員 平成 16 年



度~現在, 代議員 平成 18 年度~現在

〔著書等〕 都市モデル読本 (共立出版, 2004), サステナブル生命建築 (共著, 共立出版, 2006), 建築最適化への招待 (共著, 丸善, 2005), 最適設計ハンドブックー基礎・戦略・応用ー (共著, 朝倉書店, 2003), 学術論文 40 編, 発表多数

栗田氏は, 都市・建築空間の効率的な設計法に関する基礎理論や社会現象のモデル分析を中心に研究活動を行われ, 特に都市内距離の分布と特性値に関する基礎研究は独創的な内容をもっており, その成果は都市・地域モデルに関する種々の研究で用いられています. 本学会においては, 庶務幹事, 機関誌編集委員, 国際委員, 理事, 代議員等を歴任され, 学会の発展に貢献されています.

時永 祥三 (ときなが しょうぞう) 氏

昭和 24 年 3 月生れ

〔学歴〕 昭和 52 年 九州大学大学院工学研究科博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 52 年 北九州工業高等専門学校電気工学科講師

昭和 54 年 大分大学工学部助教授

昭和 61 年 九州大学経済学部助教授

平成 4 年 同教授 現在に至る

〔OR 学会関係〕 九州支部運営委員 平成 5~7 年度・平成 12 年度~現在, 評議員 平成 6~9 年度, 九州支部副支部長 平成 8~9 年度, 研究普及委員 平成 8~11 年度, 九州支部支部長 平成 10~11 年度, 代議員 平成 16 年度~現在

〔著書等〕 経済経営のためのプログラミング (九州大学出版会, 1987), 経済情報管理の基礎 (九州大学出版会, 1990), S による経営情報解析 (牧野書店, 1993), 複雑系による経済モデル分析 (九州大学出版会, 2000), 数理ファイナンスの新分野とその応用 (工学図書, 2004), 複雑系とシステムリスク分析 (九州大学出版会, 2007) 他, 論文 175 編, 発表多数

時永氏は, 長年にわたり時系列解析, 経営情報システムの理論と実際, 複雑系の研究に従事され, 多くの成果が OR 学会論文誌等に掲載されており, 特に複雑系によるシステム最適化やエージェントシステム分析などで興味ある結果を残されています. 本学会におい



ては、九州支部幹事、運営委員、支部長、代議員として活動を支えてられました。

中山 弘隆 (なかやま ひろたか) 氏

昭和 20 年 2 月 生 れ

〔学歴〕 昭 49 年 京 都 大 学
大 学 院 工 学 研 究 科 博 士 課 程 単
位 取 得 退 学 (工 学 博 士)

〔職歴〕

昭 和 49 年 甲 南 大 学 理 学 部
講 師

昭 和 54 年 同 助 教 授

昭 和 60 年 同 教 授

平 成 13 年 同 理 工 学 部 教 授 現 在 に 至 る

〔OR 学 会 関 係〕 平 成 3 年 度 第 11 回 事 例 研 究 奨 励 賞
受 賞, 平 成 5 年 度 第 8 回 事 例 研 究 奨 励 賞 ソ フ ト ウ ェ ア
部 門 受 賞, 関 西 支 部 運 営 委 員 昭 和 61 年 度 ~ 平 成 13
年 度, 評 議 員 平 成 4 ~ 5 年 度 ・ 平 成 10 ~ 11 年 度

〔著 書 等〕 Theory of Multiobjective Optimization
(共 著, Academic Press, 1985), 新 し い シ ス テ ム 工
学 入 門 : し な や か な シ ス テ ム ズ ア プ ロ ー チ (共 著, オ
ー ム 社, 1988), 線 形 代 数 と 凸 解 析 (共 著, コ ロ ナ 社,
1991), 多 目 的 計 画 法 の 理 論 と 応 用 (共 著, 計 測 自 動
制 御 学 会, 1994) 他, 学 術 論 文 153 編, 研 究 発 表 多 数

中山氏は、多目的最適化の理論・方法の研究を続けてこれ、近年はそれらをサポートベクターマシンなどの計算知能に応用し、さらにそれらを用いた逐次近似最適化法の開発に従事されるとともに、実問題への応用も精力的に行われています。本学会においても、評議員、関西支部運営委員を歴任され、その発展に貢献されています。

枇々木規雄 (ひびき のりお) 氏

昭 和 40 年 10 月 生 れ

〔学歴〕 平 成 6 年 慶 應 義 塾
大 学 大 学 院 理 工 学 研 究 科 博 士
課 程 修 了 (工 学 博 士)

〔職歴〕

平 成 4 年 慶 應 義 塾 大 学 理 工
学 部 助 手

平 成 9 年 同 専 任 講 師

平 成 14 年 同 助 教 授 現 在
に 至 る

〔OR 学 会 関 係〕 平 成 14 年 度 第 30 回 文 献 賞 受 賞, 会



計 幹 事 平 成 8 ~ 9 年 度, 平 成 18 年 度 ~ 現 在, 論 文 誌
編 集 委 員 平 成 12 ~ 15 年 度 ・ 平 成 17 年 度 ~ 現 在, 会
計 理 事 平 成 16 ~ 17 年 度, 代 議 員 平 成 18 年 度 ~ 現
在

〔著 書 等〕 金 融 工 学 と 最 適 化 (朝 倉 書 店, 2001), 金
融 工 学 入 門 (共 訳, 日 本 経 済 新 聞 社, 2002), ポ ー ト
フ ォ リ オ 最 適 化 と 数 理 計 画 法 (共 著, 朝 倉 書 店,
2005), 学 術 論 文 24 編, 研 究 発 表 多 数

枇々木氏は、金融工学、特にポートフォリオ最適化の分野で精力的に研究活動をされており、成果を専門誌に発表されるとともに実務への応用にも尽力されています。平成14年度には最適資産配分問題に関する論文で本学会文献賞を、他にも平成18年度にアジア太平洋保険リスク学会最優秀論文賞、日本FP学会優秀論文賞を受賞されるなど、その業績は高く評価されています。本学会においても、会計理事、論文誌編集委員、代議員等を歴任され、その活動を支えておられます。

松井 知己 (まつい ともみ) 氏

昭 和 37 年 2 月 生 れ

〔学歴〕 平 成 2 年 東 京 工 業
大 学 大 学 院 総 合 理 工 学 研 究 科
博 士 後 期 課 程 単 位 取 得 退 学
(理 学 博 士)

〔職歴〕

平 成 2 年 東 京 理 科 大 学 理 工
学 部 助 手

平 成 4 年 東 京 大 学 工 学 部 講
師

平 成 8 年 同 大 学 院 工 学 系 研 究 科 助 教 授

平 成 13 年 同 大 学 院 情 報 理 工 学 系 研 究 科 助 教 授

平 成 18 年 中 央 大 学 理 工 学 部 教 授 現 在 に 至 る

〔OR 学 会 関 係〕 平 成 13 年 度 第 26 回 普 及 賞 受 賞, 研
究 普 及 委 員 平 成 2 ~ 5 年 度, 庶 務 幹 事 平 成 6 ~ 9 年
度, 論 文 誌 編 集 委 員 平 成 10 ~ 11 年 度, 情 報 化 委 員
平 成 11 ~ 12 年 度, 情 報 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 委 員 平
成 16 年 度, 広 報 委 員 平 成 17 年 度, 代 議 員 平 成
16 年 度 ~ 現 在

〔著 書 等〕 オ ペ レ ー シ ョ ン ズ ・ リ サ ー チ (共 著, 朝 倉
書 店), 応 用 数 理 計 画 ハ ン ド ブ ッ ク (共 著, 朝 倉 書
店), 学 術 論 文 53 編, 研 究 発 表 多 数

松井氏は、数理計画およびアルゴリズムの分野で精力的な研究活動をされており、成果を国内外の専門誌



に発表されるなど、その業績は高く評価されています。また、インターネットが普及し始めた時期にいち早く最適化のホームページを開設し、最適化アルゴリズム等の普及に努められ、平成13年度OR学会普及賞を受賞されました。さらに、組合せ最適化研究部会COSTAを創設され、その主査として学生中心の数理計画の研究会を開催し、若手研究者の育成にも尽力されています。

山上 伸 (やまがみ しん) 氏

昭和32年3月生れ

〔学歴〕 昭和54年 東京大学工学部計数工学科卒業 (コーネル大学 Ph. D.)

〔職歴〕

昭和54年 東京ガス(株)入社

平成18年 同IT活用推進部長 現在に至る

〔OR学会関係〕 研究普及委員

平成2~4年度、会員対策委員 平成4~5年度、機関誌編集委員 平成5~8年度、表彰委員 平成13年度~現在、庶務理事 平成14~15年度、基本問題検討委員 平成14年度、情報コミュニケーション委員 平成15年度、代議員 平成16年度~現在

山上氏は、東京ガスに入社以来、統計解析や確率モデル、最適化理論などを経営から現場にいたるさまざまな問題に適用し、OR手法の活用を図ってこられました。本学会においては、各種委員、理事、代議員等を歴任され、その発展に貢献されています。

山下 英明 (やました ひであき) 氏

昭和34年4月生れ

〔学歴〕 昭和62年 上智大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和62年 上智大学理工学部助手

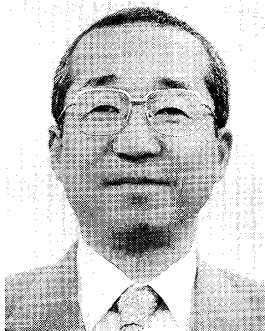
平成7年 駒澤大学経営学部講師

平成8年 同助教授

平成10年 東北大学大学院経済学研究科助教授

平成12年 同教授

平成14年 東京都立大学経済学部教授



平成17年 首都大学東京大学院社会科学部教授 現在に至る

〔OR学会関係〕 研究普及委員 昭和63年度~平成元年度・平成6~9年度、機関誌編集委員 平成8~12年度・平成18年度、東北支部幹事 平成10~13年度、庶務幹事 平成13~14年度、論文誌編集委員 平成14~17年度、庶務理事 平成15~16年度、情報コミュニケーション委員 平成15~16年度、代議員 平成18年度、現在編集理事

〔著書等〕 次世代生産システム—自律分散協調型の生産システム—(共著、白桃書房)、査読付き論文27編、他論文、研究発表多数

山下氏は、待ち行列理論分野で研究活動を続けてこられました。特に、生産システム、通信システム、道路交通システム等の確率モデルの性能評価に興味をもち、その成果は国内外の学術雑誌に掲載されています。本学会においては、論文誌編集委員、機関誌編集委員、庶務理事、代議員等を歴任され、学会の発展に貢献されています。

山田 茂 (やまだ しげる) 氏

昭和27年7月生れ

〔学歴〕 昭60年 広島大学大学院工学研究科博士課程後期システム工学専攻修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和52年 日本電装(株)入社

昭和58年 岡山理科大学助手

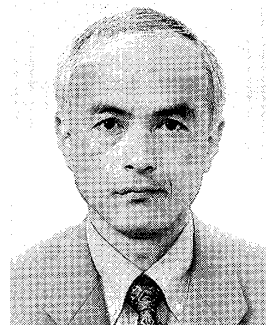
昭和60年 同講師

昭和63年 広島大学工学部助教授

平成5年 鳥取大学工学部教授 現在に至る

〔OR学会関係〕 中国四国支部幹事 昭和63年度~平成4年度、評議員 平成10~13年度、論文誌編集委員 平成14~17年度、代議員 平成14~15年度・平成18年度~現在、中国四国支部運営委員 平成14年度~現在、平成19年春季研究発表会副実行委員長

〔著書等〕 ソフトウェアマネジメントモデル入門 (共立出版, 1993)、ソフトウェア信頼性モデル—基礎と応用—(日科技連出版社, 1994)、TQMのための統計的品質管理 (コロナ社, 1998)、ソフトウェアの信頼性: モデル, ツール, マネジメント (プロジェクトマネジメント学会, 2004)、品質指向ソフトウェアマネ



ジメント（森北出版，2007），査読付英文・和文学会論文 181 編，査読付国際会議論文 161 編，学会発表多数

山田氏は，長年にわたりソフトウェア信頼性工学，ソフトウェア品質管理を中心に研究に従事されてきました。同時に，数多くの共同研究・受託研究も実施さ

れ，国内外の研究をリードされるとともに，国際的にも広く知られた先駆的かつ顕著な研究業績を挙げられ，多くの論文賞を受賞されています。本学会においても，評議員，代議員，論文誌編集委員，中国・四国支部運営委員等を歴任され，その活動を支えてこられました。